裏長屋の変身アトリエ

【台東区・松が谷】WASABI

上野と浅草のちょうど中間にある台東区松が谷。日本一の調理道具街・合羽橋があることで知られる松が谷は、その便利なロケーションにもかかわらず、地下鉄の最寄り駅（銀座線稲荷町／田原町）から徒歩十数分というアクセスのせいか、どこか時間の止まった、再開発の波から取り残された感覚が漂うエアポケットのような街区である。

その松が谷の、長屋のような２階建て店舗兼住宅に、2011年秋にオープンしたばかりの『WASABI』は、「ロリータ系かわいいコスチューム衣装専門店」。もうちょっと詳しく言うと、「ロリータ系かわいいコスチューム」を１週間１万円前後というリーズナブルなお値段でレンタルできて、希望すればヘアメイクもしてくれて、写真も撮ってくれるアトリエ。こころに秘めた変身願望をかたちにしてくれるサービスだ。

「いちどはロリータやメイドの女装をしてみたかった」男性や、「結婚式の二次会にブリブリのアイドル・コスをしてみたい」女性など、WASABIにはいろんなお客さんがやってくる。それも、ほとんどはクチコミで。秋葉原や中野や、いまではドン・キホーテとかでも変身用のコスチュームは買えるけれど、たいていはペナペナの安物。しかも「いちどはやってみたい」「パーティの余興に」なんていうひとにとって、コスチュームは必要なときに借りられればいいのであって、買って使って、あとはずーっと箪笥の奥に仕舞っておくなんて無駄なこと。そういう、マニアのコレクター以外のほとんどのひとのために、いままでありそうでなかったサービスとも言える。

WASABIを始めた塩澤政明さんは、1956年生まれの55歳。葛飾区高砂に生まれて、「高校卒業まで３回ほど転居しましたが、ぜんぶ葛飾区内でした」という生粋の下町っ子だ。

お父さんが相撲茶屋で働いていた関係で、年の半分は「名古屋や大阪場所に行っていて不在」。お母さんにおばあちゃん、女のひとたちの中で育つうちに、「小さいころから塗り絵や人形とか、女の子っぽい遊びが好きだったんです」という男の子になった。玩具の町工場が集中する土地柄でもあるだけに、「幼稚園のころから、近所の町工場から出来損ないの人形をもらってきて、自分で着物を作って着せたり、小学校の帰り道で線路脇にバービー人形のＢ品がどっさり捨てられてるのを発見、ごそっと拾ってきて洋服作って遊んだり」という、ある意味めぐまれた環境でもあった。

赤ちゃんのころに大病を患い、「ふつうの仕事は体力的に無理だと思い込んじゃって、美容師かデザイナーになるしかないなと」考えていた塩澤さんは、高校卒業後、千住の青果市場で働きながら、文化服装学院の夜間部に通う。専攻したのはもちろん、小さいころから好きだったレディース・ファッション。朝から夕方までは市場勤務、夜は学校という生活を３年続けて卒業したあと、「もう少しテキスタイル自体の勉強がしたくて」、やっぱりバイトしながら大塚テキスタイル専門学校に通い、生地のしくみから洋服のデザインまで洋服づくりの全般を学んで卒業、アパレルメーカーに就職する。

「最初に勤めたのは婦人コートのメーカーで、それから結局８社ぐらい、小さなメーカーばかりを転々として、そのたびに新しい分野のノウハウを学べたんです」という塩澤さんに転機が訪れたのは、いまから20年ほど前のこと。フリーランスになって、いろいろな会社と企画立案からブランド立ち上げまで仕事を一緒にするようになったころ、「ある契約がダメになっちゃって、新しい会社との仕事が欲しいな」と思って求人広告を見ているうちに、「ステージ衣装の製作・販売」という

WASABIのアトリエは白を基調にしたシンプルな空間だが、なにしろコスチュームが派手派手！

SAMPLE
©Chikumashobo Ltd. 2012 All Rights Reserved.

SAMPLE
© Chikumashobo Ltd. 20